NPO わかやま環境ネットワーク通信
ういねっと
Wakayama environmentalists NET work
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
第25号
2011年9月20日

台風12号の豪雨による被害甚大

台風12号の豪雨被害は、和歌山県で死亡47人、行方不明9人、全半壊家屋216棟、床上下浸水4908棟（以上9月15日現在）、農林水産業などへも甚大な被害をもたらしました。9月10日、那智勝浦町に被災支援に入った、事務局の森田耕一さんに状況を報告してもらいました。

那智川氾濫で土石流被害

９月10日、台風12号による集中豪雨被害を受けた東牟婁郡那智勝浦町に入った。今回の目的は、去る7月30日市野々(いちのの)地区で行われた「低炭素技術スキルアップ講座」でお世話になった方々の被災支援と、市野々小学校脇に設置された小水力発電設備の確認である。
和歌山市内からは高速を経由して42号線を海沿いに走る。鉄道は那智川の河口を跨ぐ鉄橋が豪雨で流され、白浜駅までしか運転していない。

串本の橋杭岩を右手に見て、古座川町に差し掛かったあたりから海の濁りが目立つ。海中のいけすに入った養殖鯛が大量に流れ込んだ淡水で全滅したという話も聞いた。磯の岩には半分白木になった松の巨木が根もあらわに横たわっていた。

太地町を過ぎたあたりに湯川という地区がある。その奥まった山裾にMさんの家があった。9月3日の深夜には川が決壊し水位が２mほど上昇したという。
夕方まで畳や家具の廃棄処分を手伝ったが、それもほんの一部で、今後大変な作業が待っている。
日が暮れるまでに市野々小学校にたどりつこうと湯川をあとにした。

被災地支援の車両で渋滞が始まっていた。那智川にかかる汐入橋を渡り北上すると市野々地区につづく。那智川は源流部に世界遺産に登録されている「那智の大滝」を有する。汐入橋を渡った所で様相が一変する。瓦礫の山が続いていた。あちこちで半壊状態の車両や家を目にした。氾濫した那智川とその支流の土石流は、主に川の東側の地域に甚大な被害を及ぼしたようだ。交通規制の中、ようやくたどり着いた市野々小学校に以前の面影はなかった。プールには泥水がたまり、横を流れる那智川にはふた抱えもあるような巨石が無数に転がっている。土手に植え

られた大桜の根が水に洗われ葉が黄色く萎縮していた。以前は草深く見通せなかった上流部をみると、あったはずの住宅地は数軒の家を残して壊滅状態だった。

大きな楠の脇に水力発電の変電設備を収納したロッカーがあったはずだった。見渡してもそれらしきものは無い。しばらくして流木と土砂の隙間に銀色の水車を見つけた。

「あった！」皆が同時に声を上げた。水車の羽がところどころ曲がっているが台座から外れなかったようだ。

災害からの復活と共に、この水車も回り出す日がきっとくる。そう信じて市野々をあとにした。

今回のような地球温暖化が一因と考えられるような、亜熱帯並みの集中豪雨は防災上想定されておらず、今後、水害対策見直しの必要がありそうだ。

また、被災地のように過疎化が進む地域には若者が少ない。老人が呆然と座り込んでいる姿を何度も見た。若い力が必要だ。現地ではボランティアセンターが設置され、皆さんの応援を求めている。

詳しくは、　http://shakyo.com/

（和歌山県福祉活動ガイド）　まで。

台風12号水害と環境市民運動の課題

台風１２号に伴う大雨で紀伊半島に大変な被害が出た。大慌てで安否を確認した紀南地域に暮らす知人のうち、幾人かは家屋や仕事場が水没していた。ＴＶニュースで放映される県内の被災地は、いずれも良く見知った場所ばかり。例えば大きな被害が出た新宮市熊野川町日足地区の映像では、地上数メートルある道路標識や電線に杉の木や家財道具が引っかかっていた。民家の屋根に乗り上げた自動車もある。その高さにまで水はきたのだ。平時の美しく穏やかな山里の表情を知っているだけに、身の毛がよだつ思いがした。

この大災害の直接の原因はもちろん記録破りの大雨。なぜこのような大雨が降ったかについては、地球温暖化が寄与している面もあるだろう。温暖化による海水温上昇は台風のパワーを強化し、それに伴う降雨を激しくするからだ。個々の気象事象を温暖化と直結して論じるのは適切ではないが、温暖化の進行に伴う異常気象の激増は世界で観測されている事実であり、これまでの防災の常識が通用しなくなっていることをわきまえたうえで、行政機関も住民も、従来以上に慎重な対応を心がけなければならない。

振り返ってみれば、地震や火山や台風が集中するこの災害列島で暮らす人々は、頻繁に生起するこうした自然の猛威をやむなく受容し、しなやかに受け流して生を繋いできた。それが独特の無常観や「侘び寂び」に連なる精神世界の基底を形作ったとの指摘もある。災害のたび犠牲は避けられなかったが、自然を恐れ敬い、それが荒ぶる神となったときはあえて抵抗せず、ただ頭を伏せてその通過を待つか、時には脱兎のごとく逃げることで生き延びてきたのだった。

しかし、天災のメカニズムが解き明かされ、またそれに対する防御のシステムが開発され装備されるにつれ、少々の災害は恐れる必要がなくなった。平穏な生活にはもちろん福音だったが半面、自然に対する敬虔な恐れと自然が発する警告への感受性を失わせ、過信や増長を育んだ面は否めない。それが、今回のような事態に遭遇したとき、大きな犠牲を強いる結果を招いたのではなかったか。そうした面では、今回の水害被害は原発事故に通底する課題を我々に突きつけているようにも思われる。

東北は遠いけれど今回の被災地は足元だ。すでに多くのボランティアが駆けつけているが、これからも当分は様々な形での支援が必要だろう。それぞれが可能な範囲で出来る支援を真剣に考えたい。と同時に、災害に強い町へ、エネルギーや飲食料はどうあるべきなのか。近い将来、南海・東南海地震の発生も確実視されるだけに、今回の水害を機に早急に解決を求められる課題も改めて浮上した。地球温暖化を防ぎつつ住民の生命と暮らしを守る地域社会をどう作りあげてゆくのか、環境市民運動が担う仕事は大きい。　（重栖　隆）

クローズアップ　わたしたちの活動⑲

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

NPO法人根来山げんきの森倶楽部

事務局長　岡田和久

【森林ボランティア活動を始めました】

私たちは、岩出市にある県立森林公園「根来山げんきの森」を本拠地に、公園内の森林整備や整備した森林を活用した自然体験サービスの提供などを行っています。活動の内容から森林ボランティア団体と呼ばれています。

私たちが活動を始めたのは平成11年。国有林だった195haのこの森を平成9年に和歌山県が購入し、その後、森林公園として利用するためにボランティアで整備していく方針となり、ボランティアを募集したのです。その時、集まった80人あまりのボランティア達は月1回の活動を通して、ヤブ化していた周辺の里山を整備し、歩道を作り、作業道具を入れる小屋や展望台、炭焼き小屋などを作っていきました。活動に必要な資金は様々な助成団体に申請して獲得した資金や会費でした。

【公園の管理運営を行っています】

当初は、森の木を切る作業に汗を流していた倶楽部員ですが、里山の整備が進み気持ちのいい空間ができてくると、ここで映画会やコンサート、自然観察会などを行い、多くの県民のみなさんに自分たちが整備したこの森を楽しんでいただきたくなり、様々なイベントや観察会などを行うようになってきました。

平成14年、根来山げんきの森が森林公園としてオープンしてからは、管理主体として公園を運営し、平成18年から正式に指定管理者として県から公園の管理を受託しています。今年4月からは植物公園緑花センターの管理も受託し、二つの公園の管理運営を行っています。

【一緒に気持ちのいい汗を流しませんか】

私たちが目ざしているのは、身近にある森を自分たちの手で整備して活用できるような県民が一人でも増えてくれることです。

ご存じのように、森は私たちに様々な恵みとやすらぎの空間を与えてくれます。また、子どもたちの成長に森の中での様々な経験は大変役に立ちます。それに加えて、私たちの暮らしにうまく活用していける森を作る作業が、また、楽しいのです。

この木は残し、この木を伐採してどんな森を作るのか、みんなで議論しながら作業を進めます。そして、気持ちのいい森を作るために流す汗は、これまたとびきり気持ちいいのです。

私たちは一緒に活動してくれる仲間を募集しています。年齢も性別も経験も気にする必要がありません。みんなでわいわい言いながら、森の中で私たちと一緒に楽しく汗を流しませんか。興味のある方は、根来山げんきの森までご連絡ください。

【連絡先】

〒640-8332　和歌山市楠右衛門小路1番地(岡田方)
NPO法人根来山げんきの森倶楽部
E-mail　forest-o@ares.eonet.ne.jp
電話／FAX　073-432-6028

事務局だより

７月末で事務局長の前岡正男さんが専従職員を退職されました。

引き続き非専従で事務局長の任をお願いすることになりましたが、業務の推進体制としては弱くなり、みなさまには色々とご不便をおかけすることになるかと思います。

持続可能な和歌山づくりへ、また、温暖化防止の活動を今にも増して強化するため、ぜひ、みなさまの力をお貸しください。

「うちエコ診断員」を派遣します

今年度の「うちエコ診断員事業」は遅れに遅れ、やっとこの9月19日から開始できることになりました。

県センターとして、今年度は100件の家庭診断を行います。ぜひ、皆さま自身やお知り合いの家庭をエコ診断させていただけませんか？連絡をお待ちしております。

（申込：県センター　073－432－0234）

インフォメーション

●「祝の島」上映会・纐纈あや監督トーク

日時：　9月24日（土）
　　13時30分～（昼の部）18時～（夜の部）
場所：　和歌山市　男女共生推進センターみらい6階
参加費：　1，500円（前売1，300円）
主催・問合せ　小鳥の会　090－7363－4066

●EM環境フォーラム2011in和歌山

～EMで作る未来の環境・健康・農業改善を考える～
講師：　比嘉　照夫　名桜大学教授・琉球大学名誉教授
日時：　10月9日（日）14時～16時30分
場所：　橋本市　橋本市産業文化会館アザレア
主催：　NPO地球環境・共生ネットワーク
問合せ：　EM活活倶楽部　090－3285－9685

●きのかわ環境フェア2011

守ろう！　水と緑に囲まれたふるさと～紀ノ川～
ええことあるかも？！　ご家族でご参加ください。

日時：11月26日（土）午前９時３０分～
場所　：　粉河ふるさとセンター

基調講演＆フォーラム、体験型ブース、子どもたちの環境活動発表、環境フリーマーケットや「やすらぎ茶屋」（エコカフェ）などを準備しています。また、ビンゴゲームで環境グッズのプレゼント。
ブース出展団体を募集しています（9月末まで）

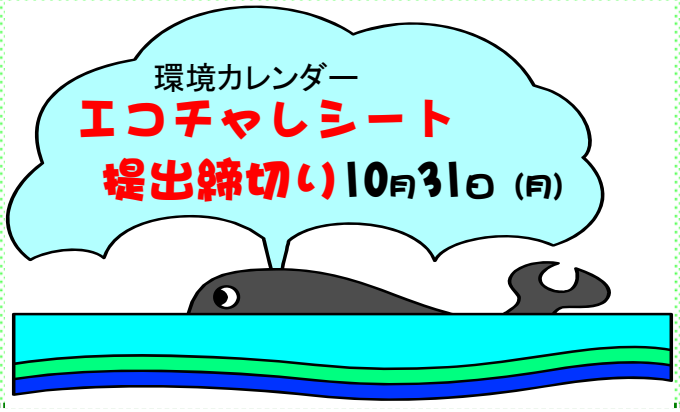
●　持続可能な地域づくりに向けて（3回連続講座）

（高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座「わかやま学講座」）

◇第1回講座：10月19日（水）19時～21時
テーマ：「生物多様性と自然教育」
講師：高須　英樹　氏（和歌山大学教育学部教授）

◇第2回講座：11月16日（水）19時～21時
テーマ：「津波と防災」
講師：小池　信昭　氏
（和歌山工業高等専門学校准教授）

◇第3回講座：12月21日（水）19時～21時
テーマ：「暮らしのエネルギーと快適環境」
講師：藤井　雅雄　氏（近畿大学生物理工学部教授）
場所　和歌山市　和歌山市NPOボランティアサロン
定員　：　40名（要事前申込）
主催・問合せ　：　NPOわかやま環境ネットワーク



うぃねっと（わかやま環境ネットワーク通信）　第25号　（2011年9月20日発行）
発行：ＮＰＯわかやま環境ネットワーク　代表理事　重栖　隆
〒640-8269 和歌山市小松原通３丁目２２　電話　073（432）0234　FAX　073（432）3881
mail：wenet@vaw.ne.jp　http://wenet.info/